

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0172902306		
法人名	有限会社 健昭会		
事業所名	グループホーム太陽と緑(緑棟)		
所在地	旭川市旭神町19番地36		
自己評価作成日	令和元年8月18日	評価結果市町村受理日	令和元年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0172902306-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和1年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

時間にとらわれず、個々のペースで生活できる環境作りを目指しています。基本的な生活の安心感を第一に、会話を重視し一緒に過ごせる時間を大切にしています。より良い生活環境になるように、本人・家族との意見交換も頻繁に行っています。代表者と職員間も風通し良く、意見交換のしやすい環境です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、旭川市の南東に位置した旭神町の閑静な住宅地にある一部2階建て2ユニットのグループホームである。環状線が近くにあり、近隣には、旭川医科大学や医大病院、回転寿司などの飲食店や商店があり、利便性のよい地区である。法人の母体は、昨年で創業70周年を迎えた旭川市の電気工事関連建設業の老舗で、地域貢献も積極的に行っており地元では信頼が厚い。当事業所は2005年に開設し今年で15年目を迎えるが法人が建設関連故、建物内は整備が行き届いている。玄関に入ると事務所があり、左右対称にユニットが配置している。各ユニットには天窓があり陽光が射し明るく中庭もある。リビングは広くゆったりしており、利用者は日中はゆったり寛いで過ごしている。2階には、和室の職員の休憩室と会議室がありゆったり休める。居室にはトイレと洗面台が設置されプライバシーに配慮している。利用者も職員も笑顔で明るく穏やかに暮らしているホームである。これからも地域の認知症支援の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が毎日必ず目にするよう、事務所に理念を掲示している。また朝礼で唱和を行っているため、再確認を行いながら仕事につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の行事(清掃等)にできるだけ参加するようにし、特に古紙回収には貢献することができる。敬老会やイベントへは利用者とともに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて定期的に利用者の状態を報告。行事の写真や、看取り介護の実例等、実態を説明し話し合いの場となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	身体拘束等の実情を知ってもらい話し合う事ができている。家族や第三者の立場からの意見を聞くことができている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困った点や疑問点など、問い合わせて指導いただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が日常的に目にする場所に「身体拘束防止に係る規程」を提示している。玄関の施錠に関しては、建物の構造上、オートロックシステムになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にて虐待防止法について学び、施設内でも閲覧できるよう配慮している。今後も施設内研修・ミーティング等にて事例検討を行うていく予定。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修等で学び、必要な方に説明できるよう知識の習得に取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約には十分な説明時間を持ち、質問等も受けながら理解を深めてもらっている。改定時には文章と共に、直接説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず家族とゆっくり会話する時間を持ち、家族と信頼関係を築ける環境作りに励んでいる。また、玄関の面会簿横に「ご意見箱」を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各棟で月一回のミーティングを行い、意見や提案をしやすい環境作りをしている。また、月一回の連絡調整会議を開催し、各棟からの意見等を代表者へ報告し改善策の話し合いの場としている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者へは随時、各職員の勤務状況を報告している。職員からの要望等への改革も行っており、意見の通りやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部を問わず研修を奨励している。外部研修後は報告書を提出してもらい、全職員と共有できる環境を作っている。ケア方法などについては、月一回の会議にて随時話し合いを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修を通じて、ネットワーク作りを確保。意見交換や各々の問題点など勉強できる良い機会となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時に、関係機関や本人、家族と充分話し合う時間を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人不在での面談を行うことによって、家族の真の要望等を引き出しやすい環境作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インフォーマルなサービスも含め、サービス内容の確認を本人、家族と一緒にやっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る仕事を依頼することで、同じ立場で持ちつ持たれつの関係性になるよう心がけている。また、隣に座ってゆっくり過ごせる時間を共有することを重視している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人と一緒に過ごす時間を大切にしてもらったうえで、決定すべき事項は家族と相談して決めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を含め、面会に来られた方とは自室にてゆっくり過ごせるようプライバシーの保護にも配慮している。面会に来られた知人に対しても、継続していただける関係性を推奨している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ一同に会せる時間を持つようにして、一緒に体操や歌を歌うなどして、お互いに一体感が生まれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に乗れる体制作りを約束し、フォローできる環境作りに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む形で生活できるよう、自己決定を促しながら意思の確認ができるような会話を心がけている。意思表示の困難な方には、家族の意向を重視している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントに加え、入所後も本人や家族との会話の中で知り得た情報を全職員で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録を充実させることによって、その人らしい時間配分を配慮している。出来る日と出来ない日の見極めをしながら、無理のない生活ペースをしてもらっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前には、本人、家族からの意見を十分聞き、また医療分野からの意見もいただけるよう配慮して作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録には詳細まで記録するようにし、朝礼やミーティング時に見直しや検討を随時行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人的なマッサージや特別な美容院の訪問など、本人のニーズに合わせ提案している。その都度、本人と家族に相談したうえで決定できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事に参加させていただいたり、家族の協力のもと、住み慣れた家へ外出できる機会を持ってもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には病院の選択も含め、十分な話し合いをもっている。初診時には家族に立ち会ってもらい主治医との関係作りを大切にしている。家族の要望、主治医からの指示など、その都度双方へ連絡調整している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の異常等は、その都度看護師に報告相談して、指示を受けられる体制作りをしている。突発的な受診に関しても、看護師の指示を仰ぎ、時には病院へ同行してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず付き添いを行い、今までの生活状況について情報提供している。定期的に病院関係者と連絡を取り、現状や快方の見込みなど情報提供をお願いしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族としっかり話し合う機会を設け、今後のケア方法について共通理解できるようにしている。時期を見て同意書をいただき、家族の意見の再確認等を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成。全職員が目にしやすい場所に貼ってあり、定期的に確認を行うようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設としての緊急連絡網と、地域の方への連絡網を作成している。地域の方が緊急時どのように行動すれば良いかをきちんと文章にて作成できている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも礼儀を忘れず、声掛けを行うよう心がけている。自室にいる間やトイレ中には必ず居室のドアを閉め、プライバシーを守れるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な意思表示ができる方には、自己決定できる場面を(二者択一など)日常の中に取り入れている。自らの思いが伝えられる人は、受容することで自らの答えが引き出せるような会話を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	体調や気分によって、散歩に連れ出したり一緒に作業をするなど、気分転換がはかれるよう配慮している。体調がすぐれない時には臥床時間を長くしたり、自由な時間配分を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の着替え時には気候を配慮して衣類選びを行っている。選択できる利用者には服を選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時には一緒にテーブルを囲んで、ゆっくりと会話を楽しみながら食べている。お膳拭きなど片付けを手伝ってもらうこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや摂取できる形態にして提供している。 (お茶が嫌いな人にはスポーツドリンク、減量気味の人には主食8分目など)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各居室にて口腔ケアを行っている。 各々に合わせて歯ブラシ・歯磨き粉・口腔ガーゼを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中、夜間それぞれに合わせた排泄介助を行っている。自力排泄ができる方には、できるだけトイレにて介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や野菜摂取にも気を配り、午後からの体操も個々にあったものを取り入れて体を動かす配慮をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的な曜日は決めているが、午前午後の入浴時間は、その人の体調や予定等に合わせて決めるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室以外にも、ソファにて寛いでもらう空間を設けたり、自由に休める環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにて服薬の説明書を保管し、いつでも情報が見られるようにしている。下剤などは各々その都度確認できるよう、ファイルに重要事項として保管し確認しやすくしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人には、みんなで一緒に歌が歌える環境を作り、散歩が好きな人には少しの時間でも外に出られるよう配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望のあった時には、一緒に買い物へ出かけ気分転換をしてもらっている。前に住んでいた家に一時帰宅など、家族に協力してもらい行うことができている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる利用者がいないため、金銭管理は施設にて行っている。本人の購入希望にはその都度応えられるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には携帯電話の持ち込みは了承している。自分でかけられない方には、職員にて代行してかけて、自室で会話してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の二重ドアによって、外から丸見えにならないよう配慮している。温度調節は施設全体と個々でできるようになっている。壁紙には季節の風物詩を飾るようして季節感を味わってもらえるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集めるスペースと、少し奥まった場所のソファでは、ひっそりゆっくりできる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなじみの家具を持ってきてもらい、できるだけ違和感のない空間作りができるようにしている。介護に合わせた居室の模様替えも、本人や家族と相談しながら決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々のレベルに合わせて、居室内の配置などを考慮し危険のないようにしている。目で見て確認できるよう、ドアに名前を貼ったり、トイレが分かりやすくなるよう張り紙をしている。		